OSAKA・Ⅱ ZONTA CLUB

大阪Ⅱゾンタクラブ第24号（2007年8月）

巻頭言

前会長（2005～2007） **牛田　三千子**

会長任期を終えて

この５月末で、なんとか２年間の会長任期を終え、ちょっと肩の荷を降ろしているこの頃です。大阪Ⅱのメンバーがとても協力的で、イベントや毎回の例会においてもきちんと各役割を果たしていただき、おかげで無事に会長職を務めることができました。本当に有難うございました。

２年間の活動のなかでも、５人の新しいメンバーを迎えることができたのは、なにより嬉しいことでした。

２年間に３回の卓話の機会を持ちましたが、その卓話の講師の先生やゲストが、そのままゾンタに入会されたというのも、ゾンタの魅力や大阪Ⅱのアットホームな雰囲気によるもの（？）と自画自賛しています。

気心の知れた仲間と一緒に勉強したり、奉仕活動をしたり、遊んだりできることほど幸せなことはありません。クラブが発足して１５年になりますが、できればこのメンバーが一人も欠けることなく２０年、３０年を迎えることができればと願っています。

しかしクラブ内の活動だけでなく、地区大会やエリアミーティングに出席しますと、ゾンタは単なる仲良しクラブではないと強く認識させられます。ゾンタの第一の主旨は「女性の地位向上」ですが、この言葉ひとつとってもたいへん範囲の広いものです。先進国の有能な意欲溢れる女性の、その能力を活かせるような場を広げるという活動も女性の地位向上の運動のひとつですし、また低開発国や宗教上の理由で家畜のように扱われる女性を、せめて人間並みにという活動も女性の地位向上運動のひとつです。ゾンタの活動はその両方をカバーしていると思います。

せっかく私たちは国際組織であるゾンタに連なっているわけですから、広く大きな視野をもってものごとに対処できるようになりたいものです。私もそうあるよう努力していきたいと思っています。

次期会長の久岡さんは、まさにそういう懐の深い人材ですので、良きリーダーとなって大阪Ⅱを更に魅力あるクラブに導いてくださると思いますし、私ももちろんそのお手伝いをしたいと思っています。

２年間有難うございました。そしてどうぞよろしくお願いします。

2007年5月10日　牛田会長の任期最後の例会(総会)
リーガロイヤルホテル「ベラコスタ」にて

坂田藤十郎新たなる挑戦
―　果てしなき至芸の道　―

徳光　正子

上方歌舞伎の芸の特徴「和事」の創始者である初代坂田藤十郎。三代目没後２３１年、長らく途絶えていた大名跡を中村雁治郎丈が襲名した。松竹座での襲名興業を機に、昨年７月に上方芸能に憧憬の深い葛西聖司氏をインタビュアに迎えてチャリティイベントを開催した。歌舞伎通でないと藤十郎の名は意外と知られていないが、ご本人は昔からの念願だったようである。いつも情熱的でパワフルな藤十郎丈であるが、さぞや緊張の日々ではないかと案じたが、初代の詳しい資料が現存されている訳ではなく、むしろ「雁次郎」を襲名した時と違って、「父や祖父の芸を受け継ぐ」様な意識を持たなくて良いので解放された気分なのだと。「坂田藤十郎と言う名前をお借りして、今後は自分の歌舞伎を一生懸命やって悔いの残らない人生を送ればいい。そう考えると自由になった」と。

様式美を重んじる江戸歌舞伎に対しドラマにリアリティーを求める上方歌舞伎。初代を大変憧れてきたという藤十郎丈は歌舞伎の中で自分の芸をつくって生涯を送りたいと望んでいる。「曽根崎心中」のお初を演じ、世に扇雀ブームを巻き起こし、武智歌舞伎との出会いで実力を磨き東宝歌舞伎や近松座での試みを通して和事を中心とする立役からあでやかな女方まで芸の幅を広げてきた。坂田藤十郎という名跡だけでなく、その精神、ひいては上方歌舞伎そのものを継ぐ心意気での襲名。人間国宝にして上方歌舞伎界の重鎮。７４才の平成の藤十郎丈は「また新たなスタートラインに立ったところ、夢を追い続けることが若さの秘訣」だと豪語する。大好きな言葉とおっしゃる「一生青春」の言葉どおり夢と期待に胸躍らせ青年のような笑顔で熱く語って下さった平成の藤十郎さんに私達も心からのエールを贈りたい。

講演を終えて記念撮影
葛西聖司さん、坂田藤十郎さん

大阪ＩＩゾンタクラブ女性と健康講座 Ｖｏｌ．１０

「アンチ・メタボリック症候群　運動の効用」を聴いて

坂本　千代

２００７年２月１０日（土曜日１４：００～１５：３０）に梅田の阪急アプローズタワー１３階で開催された講演会には、ゾンタメンバーをはじめ３１名が参加しました。今回お願いした講師は岡田邦夫先生（大阪ガス健康開発センター統括産業医）です。

数年前まであまり一般に聞かれなかったメタボリック症候群は最近では誰でも知っている言葉となっています。今回の講演では岡田先生がその実態を説明してくださったあと、予防法・治療法としての運動の効果をわかりやすく教えてくださいました。

運動不足、つまり身体活動減少による体の症状として、筋肉ポンプ作用低下による頻尿、腹筋の筋力低下による便秘、腹筋と背筋の筋力低下による腰痛、そして（加齢とともに筋肉量が減少し基礎代謝が低下するので）肥満になりやすいそうです。これを防ぐために、次の順番で日常生活の見直しを始めることが提案されました。

１．日常生活でより活動的に、より快適に【強度をふやすのではなく、活動量をふやす】
２．身体活動の種類をふやす【あらゆる場面で体を動かすように】
３．運動強度をふやす【歩行から速歩へ】
４．体と対話しながら徐々に強度をふやす【有酸素運動】
５．レクレーション、軽スポーツへ

また、内蔵脂肪が気になる人は１週間あたり次の運動量を目標にして、メタボリック症候群を改善するようすすめられているそうです。（ただし、運動習慣のない人はこの５分の１程度の量から始めること。）

速歩の場合：１週間あたり１５０分（約１５㎞に相当）
ジョギングの場合：１週間あたり９０分（約１１㎞に相当）

パワーポイントを使っての岡田先生のわかりやすいご説明のあと、フロアから質問が相次ぎました。働き盛りの人、高齢の人を含めてメタボリック症候群がいかに皆の関心を集めているかが伺えました。この講演を拝聴して、「人間は歩く動物である」ということを再認識しました。「運動する時間がないと言う人は、やがて病気のために時間を失うことになる」というのは耳に痛い真実だと思います。健康な今日と明日のために地道な努力を怠らないようにしたいものです。

秋の移動例会

西村　博子

修学旅行の生徒たちで賑わう１０月２１日（土）の京都。恒例の秋の移動例会は昭和のモダン枯山水庭園を巡りました。秋晴れの好天気に恵まれ、良い例会になりました。

午前中に訪れたのは、東山区の臨済宗東福寺、三門や方丈は国宝で紅葉の名所としても知られています。豪快な石組みと穏やかな築山を組み合わせた枯山水、東西南北の四つの庭には市松模様に配置された苔、砂地とさつき、それらの調和に見とれました。この庭は昭和１４年に作庭家重森三玲さんによって作られたものです。午後は京都大学の正門近く、吉田神社の裏参道に面した旧宅を訪れました。最近吉永小百合が出演した液晶テレビのＣＭに登場したお庭です。書院のほかに三玲氏自ら作った二つの茶室と枯山水のこの庭園が巧みに融合されて、静寂さのなかでのひと時を味わいました。この旧家を受け継がれ保存されている大阪Ｉの重森由郷さんご家族にお世話になりました。

元ゾンシャンの重森三果さんは、現在も新内演奏家として舞踏会や演奏会で活躍されています。「水戸黄門」や「暴れん坊将軍」などテレビや映画の劇中音楽も数多く手がけられ、昨秋はファーストアルバムを出されました。久しぶりに旧交を温めることが出来、嬉しかったです。またイベントにお呼びしたいものですね。

ランチは北白川の「おくむら」でのフランス懐石、雰囲気も心地よく楽しい歓談のひと時でした。祇園にもこのお店はあるとのこと、皆様またご一緒しましょう。

重森邸にて

ドイツ・ムルナウ市でのゾンタ・コンサートを終えて

河村　さと子

南ドイツ・バイエルン州の初夏は最高に美しく、心地よい気候で、心身共に私はいつも癒され、元気を取り戻しています。

毎年、私はその季節に同州のガルミッシュ・パルテンキルヒェン市で開催されているリヒャルト・シュトラウス音楽フェスティバルに音楽祭運営委員として参加し、同時に現地で私自身のコンサート活動も続けており、もうかれこれ１０年になります。

昨年、偶然、旧知で同音楽祭の運営委員であるＤｒ．シュタイナー女史と話ているうち、彼女も私と同じゾンシャンであることが判明し、今回の私のムルナウでのコンサートが彼女のプロデュースで企画されることになりました。

ドイツのゾンタクラブは日本のゾンタクラブ以上に州単位、エリア単位の結びつきが強く、各クラブのイヴェント時にはかなりの数のゾンシャンが他クラブより駆けつけ、さながら合同イベントのように盛り上がります。今回も、バイエルン州ムルナウ市のイベントのパフフォーマーとして日本のゾンシャンであり、ソプラノ歌手の私に白羽の矢が立ったというわけで、バイエルン州及び近隣のオーストリアのインスグルックのゾンタクラブの応援も受けてのイベントとなりました。

出はじめは和気あいあいの友好ムードで打ち合わせの話し合いが昨年９月ごろよりメールを通じて開始されました。

当初、私は、日本でのコンサートと同じように考えて、どのような団体からの招へいによるコンサートであっても、自分のレパートリーを披露すれば良いのだから何ら恐れるに足らずとたかをくくっていたのですが、敵はなかなかに手ごわかったのです。

＜ 終演後、アンコールに応えて ＞

＜ 楽屋口にて ＞

Zonta Club Murnau- Staffelsee

Member of Zonta Interantional

Einladung

Moderiertes Opernkonzert

Frauengestalten in der Oper

Liebende – Erlöserin – Leidende – Femme Fatale - autonome Frau ...

Moderation
Dr. Barbara Zuber,
Ludwig- Maximilians- Univesität München

Satoko Kawamura, *Sopran*
Miho Funahashi, *Piano*

Donnerstag, 21. Juni 2007, 20.00 Uhr
Kultur- und Tagungszentrum Murnau

Beitrag: € 18.--

ab 19.00 Uhr Sektempfang (nicht im Beitrag enthalten)

Benefizkonzert zugunsten unserer „Zukunftsmusiker"
Musikalische Frühförderung Murnauer Kinder

Satoko Kawamura
Sopran

Hyogo University
Osaka Japan

Gesangsstudium
- Musikhochschule Ky
- Lehrbeauftragte für (
  Hyogo Universität (
- Mitglied der japanis
  der Richard Strauss-
  Förderkreises der Ri
  Garmisch- Partenkir

Konzerttätigkeit
- in Japan, USA, Frank
  (Garmisch- Partenki
- Lied- und Opernsän
- Solistin der Kansai- N

Mitglied des Zonta C

Miho Funahashi
Klavier

Kyoto University of Art
Japan

Studium
- Beginn im Alter von
- mit zwölf Jahren erst
  der MBS Music Con
- Ausbildung an der U
  Verleihung des Bach

Konzerttätigkeit
- Mitglied von Kamm
  Japan, Connecticut
- Begleiterin von Säng
- Lehrtätigkeit mit Stu
  der Yale Shool of Mu

ビジネス・トークに入った途端、演奏曲目、演奏主旨、演奏方法について、かなり強硬に、注文をつけてきました。

コンサートの企画者のＤｒ．シュタイナー女史は「ゾンタの最大スローガンである—女性の地位向上—を目指したコンサートでありたいので、コンサートのタイトルは『オペラにおける女性の立場と役割』（より強い女性を目指して』と設定したい」と最初に注文をつけてこられました。

オペラの登場人物の女性にはさまざまなキャラクターがありますが、その性格や立場や役割には強さ弱さを超越した、美的存在意義というものがあると私はかねてから考えておりましたので、この注文にはかなり抵抗感を持っておりました。しかし、何と半年間にわたる交渉の末、次のようなプログラムに決定することが出来、ミュンヘン大学のＤｒ．ツーバー女女史の講演もはさみ、ゾンシャンの心情と知性と理性に訴えるコンサートが成立しました。

新聞誌上の音楽批判記事も好評で終わり良ければすべて良しで全員笑顔、笑顔のうちに幕を下ろすことができ私もゾンシャンとしての役割を果たせて心から安堵しております。

＜ 終演後の打ち上げパーティーでゾンシャンと ＞

o
sang an der
ka
en Franz Schubert- Gesellschaft,
esellschaft Japan und des
ard Strauss- Festspiele
en e.V.

ich und Deutschland
hen)
rin (Mozart, Verdi, Strauss u.a.)
kikai Opera Company

bs Osaka

er Jahren
Preisträgerin
etition in Japan
vestity of Arts in Kyoto und
or of Arts Degree

musik- Ensembles mit Auftritten in
d New York
n und Instrumentalkünstlern
nten und Fakultätsmitgliedern
c, New Haven (USA)

PROGRAMM

Wolfgang Amadeus Mozart (1756 - 1791)

Die Hochzeit des Figaro, Comedia per musica

Kavatine (Gräfin): *« Porgi amor/ Hör mein Flehn, o Gott der Liebe »*

Rezitativ und Arie (Gräfin): *« E... Susanna non vien!... Dove sono i bei momenti/ Und Susanna kommt nicht!... Wo sind die schönen Augenblicke »*

Carl Maria von Weber (1786 - 1826)

Der Freischütz, Romantische Oper

Arie (Agatha): *« Wie nahte mir der Schlummer, ...Leise, leise, fromme Weise »*

Richard Wagner (1813 - 1883)

Tannhäuser und der Sängerkrieg auf der Wartburg, Große romantische Oper

Erste Szene (Elisabeth): *« Dich teure Halle grüß ich wieder »*

Richard Strauss (1864 - 1949)

Der Rosenkavalier, Kommödie für Musik

Monolog (Marschallin): *« Da geht er hin, der aufgeblasene schlechte Kerl! »*

PAUSE

Giaccomo Puccini (1858 - 1924)

Tosca, Melodrama

Arie (Tosca): *« Vissi d`arte, vissi d`amorte/ Nur der Schönheit weiht`ich mein Leben »*

Madame Butterfly, japanische Tragödie

Arie (Cho- Cho- san, ganannt Butterfly): *« Un bel di vedremo/ Eines Tages sehen wir... »*

Turandot, Dramma lirico

Arie (Liu): *« Tu, che di gel sei cinta/ Du, die du von Eis umgürtet »*

Arie (Turandot): *« In questa reggia.../ In diesem Palast... »*

Dr. Barbara Zuber
Moderation

Institut für Theaterwissenschaft der Ludwig- Maximilians- Universität München,
Hochschule für Musik und Theater München

Studium

- Klavier und Gesang: Folkwang- Hochschule Essen (staatl. Musiklehrerprüfung)
- Musikwissenschaft: Freie Universität Berlin mit Promotion (Spätwerk von Anton Webern)

Berufliche Tätigkeiten

- Bayerische Staatsbibliothek München, Bereich Musiksammlung: Projekt, Musikhandschriften in Bayern
- Musikkritikerin der Süddeutschen Zeitung
- Dramaturgin der Münchner Biennale: Internationales Festival für neues Musiktheater unter der Leitung von Werner Henze
- seit 1992 wissenschaftliche Angestellte am Institut für Theaterwissenschaft der LMU (Studiengang Dramaturgie/ Schwerpunkt Musiktheater)
- seit 1995 Lehrbeauftragte für Geschichte und Dramaturgie der Oper im Studiengang Regie an der Hochschule für Musik und Theater München/ Bayerische Theaterakademie August Everding
- Bayerische Staatsoper: zahlreiche Publikationen zu Neuproduktionen

KARTENVORVERKAUF IN MURNAU BEI

Die Linie, Wäschegeschäft, Obermarkt 5, Tel. 08841 - 9507
Parfümerie Rebholz, Obermarkt 21, Tel. 08841 - 5194
Töpferei Weber, Johannisstr. 14, Tel. 08841 - 8836
Kultur- u. Tagungszentrum Murnau, Tel. 08841 - 6141- 11

ODER BESTELLEN SIE KARTEN MIT UMSEITIGEM FORMULAR!

河村さと子さんのドイツでのコンサートに参加して

内藤　恵子

６月１６日から２４日まで、河村さと子さんのＺＯＮＴＡ主催のコンサートに大阪Ⅱの代表として、同行しました。ミュンヘン到着し、タクシー運転手さんが、２紙の新聞を見せてくれました。皆の期待が伝わってきました。歌曲でなく、オペラのアリアだけのコンサートで楽しみにされているようでした。７時からコンサートなので、４時まえに会場のあるムルナウに、ゾンシャンの赤のワーゲン８人乗りで迎えに来てくださいました。素敵な町で、ムッター、カディンスキーが暮らした町です。さと子さんがリハーサルの間、美術館と散策で時間をつぶして６時３０分にホールに来て、私たちは忙しいから、とＺＯＮＴＴＩＡＮに、てきぱき段取りされました。５時３０分にホールに行くと、すっかり準備が整っていました。舞台のお花やデコレーション、幕間の飲み物、サンドウィッチ、ＺＯＮＴＴＩＡＮが手作りでした。大阪Ⅱも年に１回コンサートなどのイベントをしていると話したら、大変でしょと解かり合えました。さと子さんのコンサートは中身が充実し、感激してもらえました。ピアノの上には、さりげなく黄色のばらが１輪置いてあり、私にも黄色のばらと、ＺＯＮＴＡと描かれた手作りのマグカップを頂きました。皆の力で、お金をかけずに、暖かいおもてなしでした。私たちも努力しましょう。エリアディレクターにもお会いしましたが、美しく理知的で、お話も楽しく、ロッテルダムで再会を約束してきました。ＺＯＮＴＴＩＡＮ同士ですぐ打ち解け心を開き合えるのは、素晴らしい思い出になりました。皆様も世界のＺＯＮＴＴＩＡＮと交流する機会をのがさず、体験してください。

船橋美恵さん、河村さと子会員
内藤恵子会員、エリアディレクター（オーストリア）、ムルナウ ゾンタクラブ会長

再入会

福本　敏子

再入会させていただきました福本敏子と申します。私は以前、1998年1月から2003年8月までの約５年半ご一緒に活動させていただきました。仕事や家庭が忙しくなり、やむをえず退会させていただきましたが、一段落して少し時間の余裕ができましたので再び入会をお願いしました。例会に久しぶりに出席させていただきましたが、なつかしい皆様方が暖かく迎えてくださり、まるでたくさんの姉妹に囲まれているように感じました。これから年を重ねていく中でこういうゾンタの活動は人生の大きな潤いになると信じます。大阪Ⅱゾンタクラブの奉仕活動も楽しみですが、他のクラブとの交流もできるだけ参加させていただきたいと思っています。さまざまな職業でご活躍の方々とのふれあいも楽しみです。

プライベートでは子ども達も独立し主人とトイプードル２匹の『二人と２匹』の家族です。「チョコ」と「モカ」のいたずらざかりの2匹にふりまわされる毎日ですが熟年世代にはペットの癒し効果は絶大です。この子たちのおかげで日々明るく元気にすごさせてもらっています。自宅でほぼ毎日、眼科の診療に励んでいますが、昼間の時間を利用してピアノのレッスンやジムに通っています。若い時に比べて、本当に進歩しませんが右脳、左脳をバランスよく使えるように頑張っています。

微力ですが、お仲間に加えていただきました事を感謝し奉仕活動に励みたいと思っています。よろしくお願い申し上げます。

松本真理子氏　卓話「マリンバによる音楽療法」を拝聴して

萩原　謠子

皆の気持ちを高揚させるために「ハデ」なイメージにしていますとおっしゃる松本氏は明るい色のお洋服を着こなされ、お声もはきはきと明るくパワフルであっという間に私の心は惹きつけられてしまいました。

マリンバの音はダイレクトに聴く人の心に通じます。そして「目で見える音楽」でもあるということ。バチの動きの激しさや優しさも視覚を通じてそのまま伝わってきます。障害者は機能しないところを補うように他の機能がとても発達しています。目がみえない場合は聴覚や触覚の発達。耳が聞こえない場合は視覚の発達というように感覚がとてもとぎすまされています。そういう人たちの心にどれほど伝わって行くことでしょう。

私も老人ホームで30名ほど対象に音楽療法を行っております。私から見れば大勢の人たちが一つの塊とも取れますが、皆から見れば私との一人対一人です。松本氏のおっしゃる「扇風機の法則」はとても大事なことだと思います。会場中を扇風機のように万遍無く見渡し、一人ずつと目と目を合わせて行く事により「自分のことを見てくれている」という感動を与えることが出来ます。また、一人ずつの名前を呼び、心を通わせることで相手の心に食い込むことが出来るということも納得です。

障害者の音楽指導に関しては優しさと厳しさ、基準のあるアメとムチが必要だとおっしゃいます。大舞台の演奏会に向けては目標をはっきりさせること、仲間意識や上昇意識を持たせることが大切。そして、障害者は集中力があり、同じ事をずっと続けることが出来る素直なまっすぐな心をもっているとおっしゃいます。

用意して下さったリズム譜を見ながら会員皆でボディパーカッションを体験してみました。私も演奏会メニューに子ども達とのボディパーカッションを取り入れたことがありますが、体ごとリズムに乗る面白さに子ども達も大喜びでした。また、ボディパーカッションは「目で見える音楽」でもあります。人は「鼓動」というリズムを持って生まれて来ました。踊ることは本能ですから、音楽に合わせてリズムに乗ることは快感です。

「音楽療法を行う者は演奏者・教育者・社会人の三つを備えているべきだ。」とおっしゃることを実践されている氏のお話はとても心に響きました。

マリンバ音楽を通じて障害者たちに生きる喜びを与えている松本氏は生き生きと輝いていらっしゃいました。

新人紹介

尾松　美代子

東京女子医科大学の先輩でいらっしゃる内藤恵子先生にお誘いを頂き、お仲間に加えていただきました尾松美代子です。大阪の本町（靭公園近く）で、ささやかな皮膚科医院を開いております。（美容皮膚科も併設しております。）

私自身は、過度のストレスのない、のんびり、マイペースで楽しく生活しようを目標に日々過ごしております。また、海辺で青い空の下、のんびり波を見たり、絵を描いたりすることが好きで、世界の海のリゾートを制覇するのが夢の一つです。普段は働いているため、週日は大阪、週末は奈良で、というプチリゾート気分のリズムをつけた生活をしていますが、休みがあれば、タヒチ、ハワイ、モルディブなどに旅行に行っています。将来、リタイヤしたときに、日本の海のリゾートで暮らせればいいなと思っています。

この自己紹介を書くに当たって、クラブ冊子を読ませていただき、ZONTAは、奉仕精神、女性の地位向上活動等、すばらしいSPIRITを掲げている集まりであるのだなと知りました。私は、素晴らしい皆様、諸先輩方の貴重な楽しいお話をお聞かせいただける食事会だけでも時間の都合がつく限り、ぜひ参加させていただければと思っております。今後とも宜しくお願いいたします。

新人紹介

清水　聖保

このたび、ゾンタ２のメンバーに加えていただきました清水聖保です。

音楽での癒しをテーマにお話がありました折、お話をお伺いしたく、参加させていただいたのがきっかけで入会させていただきました。

私は、最近、よく問題になっています、子供たちの心の問題や、子供たちの発達障害について、その対応や、親御さん、学校等とのかかわりを積極的にとりながら、現代社会の中で、上手に適応していただけるようになっていただこうと児童精神科医の立場から取り組んでいます。

ＡＤＨＤ、ＬＤ,アスペルガーの子供たちの様々な問題が新聞をにぎわせるようになって、名前だけは皆様もご存知ではないでしょうか？そういった子供たちは、周囲の状況や環境によって、社会に溶け込むことも、日常生活を円滑に過ごすことも可能になるのです。しかし、周囲の大人、特に親御さんさえもが、この子たちの特性を理解していただけないことから、衝動性や、爆発性をおさえられないようにさせてしまっています。そんな子供たちの認知面や、理解の仕方を、アニマルセラピーや、プレイセラピーを通して、発達させていこうとしています。例えば、生きている犬を見て、この子たちの発言は、「この犬は、どこにスイッチがあるの？」というようなことから始まるのです。生きているという感覚がないのです。だからこそ、皆様もご存知のような新聞をにぎわす事件が起きた際、この子たちは、「人を殺してみたかった」などと言う発言にいたるのです。今、ようやく児童とかかわることが叫ばれはじめましたが、すでに大人になっている人々では、対人コミュニケーションが取れないために、職場で、うまくいかず、何度も、会社を替わる人、トラブルを起こす人々が増えています。少しでもこういう人を理解する周囲の人々が増えることを願いながら、私は、精神科の作業所や、障害者の就労をも援助していけたらと考えています。

ゾンタの皆様の様々な取り組みや、集まりを拝見し、女性が社会で奉仕の精神を持って貢献されている姿に少しでも近づけたらと思っています。何もわからぬまま入会させていただきましたが、どうぞ、よろしくご指導くださいますようにお願いいたします。

編集後記

編集作業は、個性的で創造性に溢れる世界です。そういう世界に不向きな私ですが、今回、多数の会員の方々に記事をお寄せいただき、おかげで紙面を充実させることができました。ここに会員の皆様に深く感謝申し上げます。

広報委員　久岡眞佐代